地域農業集団と利用権設定の実態

小河内一司

A study of Land Use Control Problem

Hitohs KOGOUCHI

緒言
現在の課題の一つは、兼業が進行する平圧水田地帯において、土地利用型農業の展開方向および展開にあたって中核となる経営主体の育成が重要とされることがある。
このため地域において実施された利用権設定等実態調査に参加し、一志郡一志町農村を対象にとりまとめておこなった。

この調査の趣旨は、⑴農用地利用増進事業のうち地域関係農業者等の理解合意の下に、⑵農業生産力発展の原動力となる中核的な農業経営体へ農用地の利用権等の集積を促進する利用権等促進事業の実態を把握することともに、⑶同事業の推進のための諸要因の解明を行い、今後の構造政策の推進に資することを目的としている。

この調査は一志町の農用地利用改善推進地区として指定されている集落である。農村は実行組合を組成し、組合員からの提案に非組合員からの期間借地を対象に機械化推進を実施してきた。この組合は機械利用のための組織であったが、集団規模（体面）の拡大と生産力の安定向上を図る上で大型機械による生産の技術化が求められた。組合員は大型機械による生産の技術化を協力方式によって行なっている。この方針に対する評価は、生産力の向上において、中核農家群の形成がみられる点、一方これに依存する農家層が形成されつつある点を考えることでできるので調査結果について報告するものである。

調査方法
1. 目的と課題
利用権設定等実態把握調査は、農用地利用増進法に基づく利用権設定等促進事業の実態を把握することとともに、同事業の推進のための諸要因の解明を行うことを目的として次の調査事項を設定した。
1）利用権の設定等の背景と利用権等の内容についての

実態の把握
2）作付地の集団化、農作業の効率化等農用地の利用改善の実態の把握
3）利用権の設定等の今後の展望と推進のための問題点の把握検討

2. 調査年月日: 昭和58年9月7日 - 一般調査、10月3・4日 - 精密調査
3. 調査場所: 三重県一志郡一志町農村
4. 調査方法:

<table>
<thead>
<tr>
<th>種類</th>
<th>規模</th>
<th>方</th>
<th>法</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一般調査</td>
<td>悉  皆</td>
<td>農家台帳（農業委員会、農地銀行）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>精密調査</td>
<td>標  本</td>
<td>面接</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

5. 協力関係: 三重県農業技術センター農業経営研究室、一志町産業課、東海農政局企画調整室

調査結果
1. 調査地区の農業の特色
一志町は伊勢湾沿海部に属し、名古屋、大阪から80〜90kmの水田地帯で、平坦部と山間部で構成される。
地方都市外延よりバスで30分のところにあり、交通便、出荷、通勤は易である。
1）経済的条件: 本町は近畿圏・中部圏の中間に位置し、大阪へは2時間、名古屋へは1時間の距離になり、DID都市圏に接する
2）松阪市へは30分という恵まれた地域環境にある。交通は国鉄名松線と大阪・名古屋を結ぶ近畿日本鉄道大阪線が東西に横断している。国道165号線に直しが地方道が発達し
県都津市への依存度が高く、松阪・久居市がついている。また交通立地のよいことが、住宅地の造成を盛んにしている。

2）土地条件：本町の総面積は4739haであるが、その49%にあたる2340haが山林原野であり、農用地は水田706ha、畑81ha、樹林地616ha、牧草地等137ha、計8639haである。農地の水田率は81.7%で、この水田は平坦地においては場整備の完了をみていない。しかし山間部の水田では未済で、一部に農業・排水の改修がみられる程度であった。現在、この山間部の水田において基盤整備がすんでいる。

3）作目条件：本町の農業は東部にひろがる水田による米作が中心で、この米作に接着して麦作・畑地野菜（キャベツを中心とした）、施設いちごが生産される。一方、山間部では養蚕がおこなわれる。また町内においては肉用牛および乳牛の飼養がなされている。56年の生産の状況は、稲540ha、麦作143ha、畜245ha、野菜20ha（プロッコリー6ha、軟卵野菜1ha）の作付、収穫量26000kg、採卵量225t、いたけ160tの生産量、肉牛平均預託頭数360頭であった。

4）経営条件：1戸当たり経営規模が58haと小さく、土地利用率は103%と低い。農産物販売農家は稲作単一経営が支配的で、1111戸のうち79%、882戸を占め養蚕を主業とした米作農業がいかなされている。これに対する専業経営の主導となる経営形態は、麦・養蚕・いちご・肉牛・養豚・畑地野菜等と米作の組合せによる複合経営がおこなわれている。

2．利用権設定事業等の実態

1）利用権設定の実態：昭和52年度に地域農政特別対策事業に着手し、昭和54年7月には農用地利用増進規制を成し、麦作集団栽培の定着化をはかるため、期間借地の推進、ヤム作合の合法化、中央的な農家への農用地利用権の積立による経営面積の拡大等を目的とし、農用地利用増進事業の促進を図ってきた。現在までの利用権設定等事業の実績は昭和55年293haであるが、このうち期間借地によるものは153haである。利用権設定等事業の推進は、水田利用再編計画を主に農用地の流動化を併せて推進する方法をとっている。町の水田利用再編への対応は町・農協・普及所で構成する営農協議で、町ぐるみの互助体制をとることとし、生産は重点集落（農業集落39のうち5集落）でおこなうこととした。営農協議（役場・農協・普及所で構成）を中心に農業委員（農地流動化集団推進員）、各集落長、生産組織が相互に連携した、重点集落のうち3集落を対象に転化の団体化の話し合いを重ねることにより達成された。水田転化推進重点集落を対象とする理由は、稲作および農地保有志向が強い中、単に貸し借りを進めるところは困難であり、成果が期待できにくい。したがって、次の措置を総合的に収めることにより一定の成果をあげてできている。1）集団転化の推進による収益性の確保（町独自の互助制度を含む）。2）一志町農業の将来像に示唆。3）ヤム作から利用権設定への移行という方法による利用増進事業の実績作り、4）期間借地の促進などの措置。なお、この転化重点集落の選定は、営農会議において次の条件、1）は場整備地域、2）用排水分離可能、3）6月田植植行、4）営農機械の資本装備済、5）生産組織の確立を備えている集落とし、昭和54年6集落を選定した。また地方の互助制度は、一志町水田利用再編対策事業実施要綱を作成しこれに従っている。この転化重点推進集囲で転化を実施した場合、転化奨励金の上積みを町から支払う。これは水田の所得を補償するためである。なお、財源は生産者が、政府交付金並に町庁に処出されこれをあてることとし、不足分は町費で予算計上した。

2）農用地改良事業実施集囲（調査対象集落・村の実態）：一志町の場整備は早くから（昭和37）進められ、その利用について昭和41からヤム作の振興を団体推進、大型機械施設の導入、生産組織及びオペレーターの養成により推進した。昭和56、水田利用再編対策は、従来の6つのヤム作生産重点集落に新しく3集落を加え、重點地区（農業集落39のうち9）に指定し、再び高能率集団麦作を推進した。これを通じて生産組織の強化（生産基盤・資本装備）をはかった。この集落内生産組織は内内内の生産に加えて農業者の耕地を期間借地し受託麦作をおこない、また水稲作について、農業を対象に作業受託を実施している。
小河内：地域農業集団と利用権設定の実態

以上排水良好な土壌条件ともあわせて麦作の生産条件は維持されている。庄村の耕地はこの一画に位置しており、米・麦二毛作の利用をおこなってきた。

（2）土地利用の集積………しかし、一志町の米麦二毛作方式は、昭44、131haの麦作付けを境として、昭48、100haに減少した。町は昭和48年農業振興のため、役場・農協・農業改良普及所を構成員とする営農会議を設立し、減少した麦作振興をはかっている。町は麦作の適地集落を重点地区に指定し、集落に実行組合に高能力機械の整備を助成する一方、農協は麦作のための大型乾燥施設を設備した。今回の水田再編事業の実施に伴い、53年水田利用再編事業推進協議会と営農会議の中にもなけ、さらに麦作生産の方針を強化した。すなわち転作重点推進地区をもうけ、町の助成制度の設定と集団転作懇談会により実行を指導した。庄村は転作重点地区として指定を受けた。

（3）庄村の集団麦作対応……推進体制の結成＝町の水田利用再編対策推進協議会には集落代表として、区長1名（農業委員、農家実行組合長兼務）が参画している。集落の転作推進には、区長をリーダーとし、集落の下部組織である組の組長5名、生産組織代表6名（オペレーター）を協力員として参画を求め計12名をもって推進体制を結成した。集落懇談会では、集落の水田を水系別の土地利用区分して地域化を図り、生産の安定と集団化による作業効率を高め、加算金で転作奨励金の増額をはかり、稲作所得を得るべく補償制をとる。以上の条件で麦の集団栽培の有利性を個々の農業者に説得し、各集落を討議した。その結果、生産是機械共同利用組織である庄村農家実行組合があるが実際は少数のオペラが生産を担当することとして、オペ以外の組合員は、集団内に所有する田を組合に供出し、また慣習的兼業に従事する零細な非組合員は組合に全面委任する期間貸付を行うこととした。実行組合では、組合員から個人別の作付計画をとり、希望面積の確認および集団化作付の調整をして、それにより団地内生産の耕起・播種・除草・防除・収穫にかかわる機械作業の実施、収穫物乾燥の農協の委託、生産物の収支計算、利益の配分を実施している。配分はアール計算とし面積割りで処理している。

（4）実行組合と機能……もっともかつこの実行組合は昭和44年麦作付の機械化に貢献するため、農業労務を主とする農家24戸で発足したものであり60PSトラクタおよび耕起・播種機械など附属機をそろえ、オペレーターを養成し、町の農業振興方針をもって麦作生産に寄与し、現在に至っている。この間、町ではモデル麦作団地育成事業、作付体系モデル事業など麦作の振興策を導入し、加えて今次水田利用再編推進事業を受けて、衰退方向をたどる麦作について、回復策がとられてきたとい
表1 庄村農家実行組合（昭和54年現在）

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>資本態</td>
<td>1万円して出資</td>
</tr>
<tr>
<td>業務</td>
<td>機械利用組合 内容 専任オベに対して作業委任</td>
</tr>
<tr>
<td>構成</td>
<td>希望者の参加 40戸のうち 22戸参加</td>
</tr>
<tr>
<td>機械装置</td>
<td>トラック2台 （3.64PS）、ロータリーロータリーケース1台</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>施設管理機 （コパス、ニブロ7台）2台</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>動力噴霧機 （噴口スラジン10型）1台</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>自動コンバイン （クボタ4型）3台</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>（イ）組合員に対して栽培（5ha）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>代かき（5ha）収穫（1.7ha）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>（メ）専任オベによる組合員による麦作（2ha）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>機械利用組合</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>借地による麦作生産（5.3ha）</td>
</tr>
<tr>
<td>出役内容</td>
<td>専任オベによる機械利用、オベの日当800円/時間</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>下記は組合員の輪番出役、男800円/時間、女700円/時間</td>
</tr>
<tr>
<td>生産実績</td>
<td>（メ）2ha 6.6t 10ha当たり314kg（員内）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>5.3ha 16t 10ha当たり301kg（借地）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

庄村では、麦作の適地を活かしてこれからの方策をとり入れ、①機械化生産組織としての庄村農家実行組合の充実、②実行組合の完活を大事に形成、③機械の完全装備、④専任オベの能力の向上など生産性を上げるための条件をはかるの要求めめた。かくして実行組合の役割・機能は次のように整理することができる。

ア、町の水田利用再編事業推進協議会を受けて、行政区の組織者である区長および班長を中心に水田利用再編推進体制をつくったが、その一端として機械利用組織である実行組合が核をなしている。

イ 土地利用について、農家の方針をとりまとめ、作付の調整をおこなっている。

ウ 機械を装備し、オペ体制を確立し、作業の処理能力を確保している。

エ 入作地の受託・員外農家のからの期間借地をおこなって受託組織としての実力をそなえている。

オ、麦作の収支について、ブループ計算を実施しており、また、組合員に対する作業受託については、定額の作業料金を課している。

（5）麦作の生産性……庄村集落は従来から、米麦二毛作地帯であって麦作の生産技術は他に比べて高い水準にあったといえる。しかし作昨、水田の水利用としての作作となり、水田にかわる前作の選択が問題となってくる。一部集落が有する畜産農家と麦作が共存する条件はあっても、農民の期間借地をおこなって夏作の穀物作物を作付する麦～穀物作物の方式が試みられたが、飲食作の生産力を低下させてくる。こうした、作作作付方法の反復は麦作生産力を低下させることになるので、家畜ふんの投入と麦作の利用、大豆の作付など地力の消耗を防止する技術の採用が課題となってくる。

（6）庄村集落の集団農業の特長……大都市の遠郊地帯の中には、米麦二毛作地帯に位置する庄村集落での集団農業の特長は、機械利用組合から、オペと土地提供者と分離する方向を辿っており、水田利用再編に伴う転作麦作の生産をこえて、さらに集落の3ha 1.4haのうち昭和55年では作業受託2.5ha、期間借地4.9haの計3.0ha（麦作の場合、作業受託は内容的に全面受託に等しい）の麦作生産となり、麦作の組合への作業受託はオペ（生産者）と土地提供者（＝委託）との分権の方向をつめた。しかし作昨オペ（＝生産者）は農業家であることから、担当者の農業業績が、早くとも農家所得をつやすものでなければならない。

### 調査農家の分析

1. 調査対象農家の選定

庄村の機械利用組合による宮農家は、麦作を中心にオペ群と土地提供者に分離の方向をとっており、水田利用再編の麦作生産をこえて、生産者と委託者との分権がみられる。この機械利用組合は水利倉を管理し、糧内、糧外の作付地をまとめ、機械装備の充実をはかるオペを育成し、麦作生産機械一貫化をはたしてきた。この経過が貢物役の任意となっている。

庄村の農家は、従来通り水田をを中心とした米麦二毛作を実施してきた。若千の畑はキャベツを主に、露地野菜を生産している。この米麦の生産は、米作は自己完結的に生産を行い、麦作は実行組合一部機械利用組織に依存し生産している。米作についても一部作業受託を始めている。

麦作を対象としたこの実行組合の受託の形態は1）組合員に対する、麦作作業受託、2）転作麦の経営
受託、3）労働者に対する期間借地の3つの形態となる。
いま組合員と作業参加の程度で類別すると、（1）実行組合の執行部・オペ群と、（2）執行部の出役要員に応じる組合員、（3）出役不参加……（土地のみ委託）の3つのタイプに分類することができる。

調査対象農家は類別されるそれぞれの群から17戸を選定した。類別は次の如くである。集落の戸数は39戸であるが、①実行組合参加農家23戸、②組合への不参加農家16戸である。さらに②の組合参加農家は、オペ群6戸、出役農家12戸、出役不参加農家12戸となる。②の組合への不参加農家は、オペ群10戸、出役不参加農家5戸となる。調査はそれぞれの群から17戸を選び行った。2. 対象集落における貸借実態

経営耕地37haであるが、自作地は34.4haで、自作地割合は92.9％と多い。借入耕地は2.6haで7％を占める。これに対して貸付は1.9haである。この貸借は農地法による場合が多く、残存小作による場合である。利用権の設定は借入について5.9.5a、貸付について22.4aをとる。また、他に類別される借入は3.7s、貸付は7.7aと少ない。これに対し期間借地は60.8a、期間貸付は55.6aと多く、この集落における利用権設定の主流をなしている。農家の類別に従って貸借の事情をみる次の如くである。組合員の借入地の状況は期間借地60.8a、利用権設定59.5a、農地法による77.3aである。貸付地は、期間貸付41.96a、利用権設定27.15aである。

表2 農家類別貸借実態（その1）

<table>
<thead>
<tr>
<th>類型</th>
<th>借入地</th>
<th>貸付地</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>期間借入</td>
<td>利用権</td>
</tr>
<tr>
<td>自己完結</td>
<td>8692</td>
<td>8692</td>
</tr>
<tr>
<td>組合</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>オペ</td>
<td>(60837)</td>
<td>5950</td>
</tr>
<tr>
<td>出役</td>
<td></td>
<td>2770</td>
</tr>
<tr>
<td>参加</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>出役</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>不参加</td>
<td></td>
<td>2170</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td></td>
<td>5950</td>
</tr>
<tr>
<td>員外組合</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>依存</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>(60837)</td>
<td>5950</td>
</tr>
</tbody>
</table>

3. 調査農家の貸借実態

① 働き手農家の実態

農業の貸借の形態、総合力を対象として実行組合とおこなう作業受託は期間借地の経営である。したがって農家はこの実行組合わせを含まずに生産を行なっている。農家は従来の組合員が生産の担い手となり、他の組合員は生産をオペ群に委託するという形である。農家類別に分けた稲作の規模は、農家自己完結組53.3a、オペ群162.8a、出役組98a、出役組98a、出役不参加組101a、員外利用者62aである。オペ群の規模が大きく、これに対して、自己完結組および員外利用組が60aと少ない。

利用権の設定による借地はオペ群によっておこなわれる。一方貸付は員外にあって組合に依存する利用者および員内にあって出役不参加農家によって設定されている。
表3 農家型別別貸借実態（その2）

<table>
<thead>
<tr>
<th>類型</th>
<th>戸数</th>
<th>経営耕地</th>
<th>自作地</th>
<th>借入</th>
<th>百分比（％）</th>
<th>偿付</th>
<th>百分比（％）</th>
<th>自作地割合</th>
<th>借入割合</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>戸当平均計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>自己完結</td>
<td>11</td>
<td>69644</td>
<td>6331</td>
<td>50962</td>
<td>8692</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>100</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>8751</td>
<td>124</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>組合参加</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>オペ</td>
<td>6</td>
<td>97732</td>
<td>16288</td>
<td>85203</td>
<td>12529</td>
<td>(100)</td>
<td>698</td>
<td>328 443</td>
<td>2715</td>
</tr>
<tr>
<td>出役</td>
<td>5</td>
<td>49237</td>
<td>9865</td>
<td>46557</td>
<td>2770</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>100</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>出役参</td>
<td>12</td>
<td>122217</td>
<td>10184</td>
<td>120047</td>
<td>2170</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>100</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>員外依存</td>
<td>5</td>
<td>31231</td>
<td>6266</td>
<td>31231</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>8521</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>33669</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>31487</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>39</td>
<td>370251</td>
<td>9493</td>
<td>344090</td>
<td>26161</td>
<td>(100)</td>
<td>227 628 144</td>
<td>19483 65645</td>
<td>115 845 40</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注：自作地、借入、貸付割合は経営耕地に対する割合。
期は期間借入、利は利用権、農は農用地、他はヤミ作など。

(1) 実行組合参加オペ群（B1）—— 実行組合の経営部で機械オペを担当する。農業に就労しているが、営業部門で屋敷等に出ており、農業に就業できる体制をとっている。年令は40才～50才台が多い。とっつきは予定されている農家が多い。耕作の規模は1.6haと大きく借地をおこっている。借地の形態は農地法によるものが多い。利用権設定による借地は1件である。また、期間借地により利用権の設定をとらない栽培生産を担当している。作業受託は本作について実施しているが、一部のオペでは、水稲作について田植えを中心に部分受託を始めている。

(2) 一般農家46件号—— 借地は2.6haあるが（表2.3）借地形態では農地法による場合が62.8％、1.6haをはじめ、利用権設定22.7％59a、相対の小作14.4％37aとなっている。農地法による借地は実行組合参加の自作作に多く（66a）、残りは各作物に20～30aずつ分布している。これには残存小作の在来のつもりで、借地農家は現在労力不足、とっつき不足に悩む実行組合に作業委託として依頼している。

2）一般農家の実態

(1) 実行組合参加出役農家（BⅡ）—— 経営規模は1ha以下である。労力は60～70才台と老令化している。農業はその農業の配分は他申し組合で予定されている。老令農業をつけており、機械は特装されている。また組合の下舞い労として出役している。生産は実行組合との補完で経営をおこなっている。麦作は全作業を委託し、米作についても部分作業を委託している。しかし町外委託耕地については利用権を設定する意思はない。借地は農地法によるもので残存小作である。このクラスでは現在の実行組合に対する期待が大きい。

(2) 実行組合参加出役不参加農家（BⅢ）——経営規模は1ha強と大きい。農従者は老令化している。とっつきは他産業に従事し、かわりに就農はかたくない。麦作は実行組合に全面委託して期間貸付をおこなっている。米作については一部の農家で、組合に部分作業を委託している。経営の将来については、現状維持あるいは規模の縮小を考えている。実行組合に対する期待は、現状維持の農家では現在の作業受託を中心とする実行組合を望んでいる。一方経営の縮小を考える農家では実行組合の強化を願っている。

(3) 実行組合参加・自作型（A）——この類型は自立型の農家と保育米農家2つのタイプが入っている。自立型の経営規模は1ha、畳米型では40a弱である。自立型であるが、実行組合に参加せず、自立の道をあがしてきたが、現在は農従者の老令化と、とっつきがえられず、労動力不足である。したがって今では実行組合に麦作を全面委託している。今後の経営の方向は経営縮小を考えている。実行組合に対しては、農従者を含めた実行組合の強化を願っている。畳米型では機械を作業し自己完結の体制をとっている。転作を契機として麦作を組合へ委託し、実行組合との関係がもとれた。実行組合の強化については必要を認めていない。
<table>
<thead>
<tr>
<th>ドングル</th>
<th>番号</th>
<th>前期年間農業収益</th>
<th>畜業</th>
<th>綿業</th>
<th>経営地面積 [ha]</th>
<th>合作地</th>
<th>稲入地 [ha]</th>
<th>賃付地 [ha]</th>
<th>本</th>
<th>価</th>
<th>本</th>
<th>価</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>1</td>
<td>añ</td>
<td>3</td>
<td>11</td>
<td>35.89</td>
<td>12531</td>
<td>1433</td>
<td>11009</td>
<td>25.80</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>11840</td>
<td>10812</td>
<td>1156</td>
<td>11860</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>3</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>9243</td>
<td>7333</td>
<td>1610</td>
<td>8953</td>
<td>300</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>10763</td>
<td>9094</td>
<td>1089</td>
<td>10755</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>5</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>599</td>
<td>418</td>
<td>181</td>
<td>599</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>6</td>
<td>3</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>2129</td>
<td>1655</td>
<td>479</td>
<td>129</td>
<td>1400</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>7</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>4680</td>
<td>4860</td>
<td>1060</td>
<td>3800</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>8</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>4036</td>
<td>3713</td>
<td>323</td>
<td>3514</td>
<td>522</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>9</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>3649</td>
<td>3484</td>
<td>165</td>
<td>3649</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>10</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>4491</td>
<td>4286</td>
<td>1065</td>
<td>4491</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>11</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>4325</td>
<td>3801</td>
<td>524</td>
<td>4325</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>21</td>
<td>18</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>69644</td>
<td>66817</td>
<td>917</td>
<td>69552</td>
<td>8892</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>12</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>13232</td>
<td>12473</td>
<td>1347</td>
<td>10539</td>
<td>773</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>13</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>17552</td>
<td>16328</td>
<td>524</td>
<td>14492</td>
<td>3060</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>14</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>15812</td>
<td>15688</td>
<td>2244</td>
<td>15812</td>
<td>1242</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>15</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>15270</td>
<td>15224</td>
<td>4396</td>
<td>19620</td>
<td>2749</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>16</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>18075</td>
<td>17041</td>
<td>2371</td>
<td>12142</td>
<td>1253</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>17</td>
<td>3</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>12855</td>
<td>11364</td>
<td>1889</td>
<td>12598</td>
<td>255</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>18</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>9732</td>
<td>85261</td>
<td>12471</td>
<td>82209</td>
<td>1342</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>19</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>10766</td>
<td>10562</td>
<td>204</td>
<td>10719</td>
<td>1342</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>20</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>6328</td>
<td>5612</td>
<td>716</td>
<td>5747</td>
<td>561</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>21</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>7368</td>
<td>6356</td>
<td>1200</td>
<td>7936</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>22</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>12131</td>
<td>10615</td>
<td>1516</td>
<td>10509</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>23</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>12166</td>
<td>10283</td>
<td>1883</td>
<td>12166</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>24</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>49327</td>
<td>44008</td>
<td>5319</td>
<td>46557</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>25</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>5472</td>
<td>5472</td>
<td>-</td>
<td>5472</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>26</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>5470</td>
<td>5472</td>
<td>952</td>
<td>5479</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>27</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>7573</td>
<td>7501</td>
<td>1972</td>
<td>7573</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>28</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>10456</td>
<td>8709</td>
<td>1837</td>
<td>10546</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>29</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>9650</td>
<td>6502</td>
<td>3886</td>
<td>9598</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>30</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>9802</td>
<td>8819</td>
<td>983</td>
<td>8382</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>31</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>9706</td>
<td>7663</td>
<td>2127</td>
<td>9049</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>32</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>9442</td>
<td>9279</td>
<td>763</td>
<td>9642</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>33</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>6748</td>
<td>6759</td>
<td>2109</td>
<td>6788</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>34</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>8222</td>
<td>8363</td>
<td>2869</td>
<td>8222</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>35</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>13576</td>
<td>12369</td>
<td>1207</td>
<td>13576</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>36</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>12835</td>
<td>12530</td>
<td>3518</td>
<td>12838</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>37</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>12257</td>
<td>12034</td>
<td>3518</td>
<td>12257</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>38</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>12034</td>
<td>11834</td>
<td>3518</td>
<td>12035</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>39</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>12257</td>
<td>12034</td>
<td>3518</td>
<td>12257</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>40</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>12035</td>
<td>11834</td>
<td>3518</td>
<td>12035</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>41</td>
<td>12</td>
<td>11</td>
<td>11</td>
<td>3700513</td>
<td>104960</td>
<td>55291</td>
<td>340980</td>
<td>60837</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

| 合計 | 70 | 70 | 11 | 11 | 3700513 | 104960 | 55291 | 340980 | 60837 | 5950 | 16331 | 3780 | 0 | 6545 | 2240 | 16476 | 773 | うら贷付 |

小河内：地域農業集団と利用権設定の実態
図2 庄村集落農家の類分けと調査農家一覧

<table>
<thead>
<tr>
<th>類 別</th>
<th>調査農家の農家番号</th>
<th>表面積</th>
<th>類別</th>
<th>記号</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>実行組合</td>
<td>全体………6戸</td>
<td>→ ③ ④ ⑤</td>
<td>借り手農家</td>
<td>B1</td>
</tr>
<tr>
<td>参加農家</td>
<td>出役参加……5戸</td>
<td>→ ⑤ ⑥ ⑦</td>
<td>一般農家</td>
<td>BII</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>出役不参加……12戸</td>
<td>→ ⑧ ⑨ ⑩</td>
<td>一般農家</td>
<td>BIII</td>
</tr>
<tr>
<td>実行組合</td>
<td>自作型………11戸</td>
<td>→ ⑬ ⑭ ⑮</td>
<td>一般農家</td>
<td>A</td>
</tr>
<tr>
<td>不参加農家</td>
<td>組合依存型……5戸</td>
<td>→ ⑭ ⑮ ⑯</td>
<td>一般農家</td>
<td>C</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(4) 実行組合不参加農家・組合依存型（C）- このクラスは、組合参加に際して出役義務に応じることができない農家庭であった。経営の規模は30a強と小さく、飯米農家である。実行組合との関係は水田であり組合に貸付け代償として稲作のための耕起作業を請けた。転作はこの水田の組合貸付に対して利用権の設定をおかない、期間貸付けを継続している。経営および執行組合に対する期待は現状維持を望んでいる。

考察

1 農用地利用増進制度の農家への浸透状況

利用権設定等促進事業の推進は、水田利用再編対策を主に農用地の流動化を併せて推進する方法をとっている。転作重点推進集落をまず、そのうち3集落を介して農用地の利用改善事業を実施してきた。庄村はこの該当集落の指定を得るとともに実施した実行組合活動を実施している。実行組合の活動内容は、集落の水田面積31.4ha、農家数39戸のうち23戸で生産組織を結成し、集落内の非組合員からの期間借地を組合員の開放田をもって集団栽培を実施している。集落の農家は、この実行組合との関係において経営をおこなっており、この活動の評価が農用地利用増進制度の農家への浸透状況を示すものと考えることができた。実行組合に対する評価は、非組合員自立農家型、連の出役グループ、出役不参加グループの一部、組合依存型グループからは高い評価を得ている。農家耕作農家の一卵および農家出役不参加グループの一卵において全面的な評価をえていない。これにより、実行組合が稲作に対して部分受託を始め、米・麦あわせ栽培実行組合による生産実施を中止可能であるということを気付くことができる。生産農家では農業兼業者の不足が著しく、稲作の生産対応もできるように組合の強化がされるとともに農業兼業者を含めた地域全体の組織が希望されている。

2 実行組合活動の課題

庄村集落においては、町から転作重点集落として指定をうけており、活動しているが、その実現の条件として地域力が少なく、またすでに米・麦生産のための大型機械の利用組織が形成されていたという点である。集団転作に参加できない農家に対しては、委託方法によって対応できる体制が強く求められている。もっともこれにより地力差に問題がないということは、河川用水による水田水田多収技術の早期稲作の採択ができず、したがって作付が取り入れやすく、従来から米麦にまわりを実施している集落である。したがって水田利用再編にあたっては間作の適地性を活かし、町の転作重点推進地区とし田畑転換方式による作付転作を実施している。したがって31.4haの水田に対して稲作は5haの作付を少ないうち、作付作付が多いのは、国費に加えて支援金よりなる奨励金が米栄養に支えられるためである。これ集落において、作付おくが面積可能ならば、大型機械の廃止とその利用組合を確立しており、稲作利用の推進がなっているからである。実質的に作付は作付組織の一部が奨励金を受託した内容となっているので、現在は土地利用の計画についても一部が主体的に計画するという状況においてっている。すなわち、現在作付の決定は、名目上個人にあるが、実質的には作付を実行組合が担当している。作付の調整は作付組織がおこなっている現状である。その名実一貫化が必要となっているということである。この組織のリーダーは、農業兼業の機械の有効性、収穫力分のできる生産性の向上をめざして合理的な地域利用体系の確立をめざしており、組織発展の意欲を醸成させていく。

現在、昭和52年にはじまる夏作休耕麦1作の作付ではイネナラの飼込みによる有機質の補給を不可能にし、実質的に麦作の撤退である。従って麦作の撤退は散布処理のための稲作への有機物供与を少なくし、生産力を低下させている。この生産力の回復が課題となっている。また関連して収穫作付制の選定が問題となっている。適正な田畑転換による作付の割合を計画できないのは、前述のように作付委託・配分はブロック計算という内容であるが、作付面積の決定が個々においておこなわれているためである。米・麦について年間を通じた作付割
合の計画と作付地の調整が必要とされるところである。
3. 実行組合と担い手農家の形成
麦作を対象に個別生産の支援組織として、集落の中核農家層を集まって生産する組織であるが、現在では生産を担うオペ群として成長し、実行組合における生産の担い手となっている。このオペ群は、実行組合にあって大型機械を所有し、機械化の技術化を追求している。水田利用再編化や集落の耕地化について個人管理を体験した。以上のオペ群は、集落営農の要としての役割をはたしている。このオペ群は、それぞれ経営規模の拡大を図っており、また実行組合において受託経営への変化を考慮している。そのため、米作についての対応が今後の課題として残るわけである。現在、米作については田植作業を中心に部分作業の受託を行っている。
4. 農従者不足農家への対応
この集落では農従者の老令化と後継者の不在から労働力不足農家が多い。自ら生産を求めるというのである農家は、オペ群および組合の出力不参加層の一部である。これに対しても出力農家では老令化が著しく農従者を欠いている。加えてもと農業についても予定されていない。また非組合農家は水田農家が多いが、転作を契約として期間貸付など組合依存を深めており休耕農家が多っている。以上農従者不足農家では、今後経営の縮小を考える農家が多く、方法と方法の受け付けおよび農作業の委託をあらゆっている。委託者は実行組合の考えており、その強化が望まれるところである。強化策としては、組合組織の集落全戸への拡大、水稲作の受託を希望している。実行組合ではオペ群とオペ群に委託する農家への分化がなされているが、生産はこのオペ群が担当することとなる。したがってこの実行組合の役割、加えて実行組合とオペ群との関係が課題となるところである。
5. すすび（実行組合と利用権設定との関連）
農用地利用増進事業の目的が、耕地の有効利用と担い手農家の育成であると、この実行組合の活動は、担い手農家の形成を通じて組合を導入する生産力の推進向上が求められており、目的の方向をとっていることになる。一方で、興農する農家については、実行組合の存在がこれに連携をもってことにより農業生産の役割を果たすことができる点で地権者としての使命をはたしている。しかしながら、この実行組合は農業を中心としていたものであり、加えて水田利用再編対策に加えられた展開であった点、この活動を自らのものとしてゆくため今後も期待されるところが多い。一つは集落全戸への組合の拡大。一つは受託体制の確立。三つは生産の安定化、などが大切となる。利用権の設定は、オペ群と委託者との間の期間借地として設定されている。しかし実質的には実行組合に対し、農業者が期間貸地をおこなっているのである。農業者がそれぞれ労働力不足に対応した選択によりおこなわれたものである。一方農家において期間借地が設定されている。執行部は組合員の中で出力報酬を問題としない出力不参加農家グループに期間借地を設定した。このさい執行部は土地利用を考え、面積の集積の合意が得られるよう努力し、成果を上げている。このことは組合にあってオペ群が水田作の担い手として力を形成していることを伺い知ることができる。問題は、生産的収益配分が組合員に面積割で平等に配分されることである。執行部＝オペ群の報酬は平等に加えてオペ農作の報酬が上積みされた額である。したがって経営努力に対する評価は認められていないわけである。オペ群といえば、農業農家であることから、担当者の年間所得が少なくとも組合員の農家所得をつくらもないうのでなければならない。

結語
利用権等の設定の実態調査は、一志町庄村を実施し実施した。庄村は一志町の農用地利用改善推進地区として指定されている集落である。庄村は実行組合を組織し、組合員からの提出書と非組合員からの期間借地を対象に機械化作業を実施してきた。水田利用再編を契約とした転作田の受託をおこない作業集団栽培を実施し成果を上げている。組合の執行部は、大豆の導入による麦・大豆二毛作の定着・青刈大豆による地方の維持・機械装備の充実による生産性の向上につなげている。この農家はを通じて機械利用のための組織であったが、集団規模（麦作）の拡大と生産力の安定と向上をはかるためには、大型機械化による生産の技術化が求められて、組合員が互いに協力して生産をおこなう協業方式をとっている。この方式に対する評価は生産性の向上では、中核農家が形成されるとされる点は、一方これに依存する農家層が形成されつつある点から評価できる。

利用権の設定においては、現在の実行組合については、内容的に受託組織であるので受託組織としての変質が考えられなければならない。現在の実行組合は、執行部が安定した生産力を持つ受託者として成長することが必要であり、そのための支援組織として役割を果たしていくことができる受託者としての経済的自立を可能にする新しい受託体制が望まれている。そしてこの受託者に対する受託者間の関係の一変である。実行組合は、新たな地権者の土地利用改良の調整体制として機能することのできるものとされる。これに、型多様な技術が定着技術として体系化されなければならない。
参考文献および資料名
1) 東海農政局企画調整室 (1984)：利用権設定等実態把握調査報告書 (III) — 三重県一志郡一志町庄地区
2) “” (II) — 愛知県大府市北崎地区
3) 小河内一司外 (1984)：三重県における集団的実地利用の形成過程と土地利用組織、三農技研究報告、12・75～89
4) 小河内一司 (1977)：地縄的集団による水田の管理方式、農業経営研究、28・13～20
5) 農政研究センター (1981)：農地の集団管理
6) 小倉外 (1976)：集団営農の展開—新しい農業の生産組織のために、御茶の水書房